

# 方

二年 画数 4  
筆順、エ、フ、方  
オン、ホウ  
クワン、カタ



成り立ち

田やはたけをたがやすどうぐの「すき」のかたちをあらわした字です。むかしのせいかつにはぜひともなくてはならないどうぐでしたから、それで、「生きる」「手だて（生き方）」といういみをあらわしました。  
「生き方」の「方」といういみから、「東の方」というようにもつかわれ、「方角」というつかい方も生まれました。  
また、「四方」といういみから「方形」というつかい方も生まれました。

### 使い方

▽その「方法」は、てきも「味方」も、「両方」ともにまんぞくするものでした。

### 熟語例

- ▽方法（法は「きまり」。「きまつたし方」といういみのことば。「やり方」。手だて。手段）
- ▽味方（「身方」のあて字。「自身の方」といういみのことば。自分の方のなにかま）
- ▽両方（両は「二つ」。「二つの方」。「てきの方」と味方の「方」との二つの「方」）
- ▽方向（向かっていく方がく。「向き」ともいいます）
- ▽方針（方がくをしめす針」といういみのことばで磁石の針のこと。これによって目ざす方がくがはつきりするので「目ざす方がく」「目やす」とくに「よりどころとなる」「目やす」のいみにつかわれます）
- ▽水は方円の器に従う（方は「四かく」、円は「まる」。水は四かくの器に入れば四角になり、まるい器に入ればまるくなります。そのように人もよい人の中にいるとよくなり、わるい人の中にとわるくなります）

# 北

三年 画数 5  
筆順、一、ノ、ヨ、ナ、北  
オン、ホク  
クワン、キタ

成り立ち



人が「せなか」をあわせてすわっているかたちをあらわしたもので、「せなか」といういみをあらわした字です。いまの「背」という字のものと字です。  
人はお日さまのほうにむきたがるものですから、「せなか」はそのほんたいの「きた」のほうをむきます。それで、この「北」という字で「きた」のほうがかくをあらわすことにしました。

このため、「せ」をあらわすために、この「北」に、「月」をくわえて「背」という字をつくりました。

〔戦いに負けて逃げるのを「敗北」というのは、「敗れて敵に「背」を見せる」という意味である。これは、「北」が「背」の意味に使われている例である。〕

### 使い方

- ▽北風は北方からふいてくる風のことですから、たいていかわいていてつめたい風です。
- ▽北進することを北上するというわけは、ちずでは北が上になっているからです。

### 熟語例

- ▽北風（北の方からふいてくる風）
- ▽北方（北の方。北の方がく）
- ▽北進（北にむかって進むこと）
- ▽北上（北にむかって進むこと）
- ▽北欧（欧は欧州でヨーロッパのこと。北ヨーロッパということ、ノルウェー、スウェーデン、デンマークなどのくにぐにのこと）
- ▽北極（極は極地のいみで、地球の「北のはて」。地球上のどの地点から北上しても、北極の一点にあつまります）
- ▽北海（北方の海）
- ▽北洋（洋は「ひろい海」。北方の海）
- ▽北陸（むかし、北陸道とよばれたちほう。いまの、福島県、石川県、富山県、新潟県をふくむちほう）